

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	グローバルリーダー教育 院	申請大学名	東京工業大学
申請大学長名	三島 良直		
プログラム責任者	丸山 俊夫		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長の強いリーダーシップの下、プログラム責任者とコーディネーターのアドミニストレーションにより、プログラムは着実に実施されている。 ・設備や教員の配置など、所要の体制整備が確実に進められている。 ・本プログラムの特長であり、人間力を鍛錬する上で最も重要な役割を担う「道場」教育においては、経験と力量豊かな「道場」主が全力投球で当たっており、そのことがプログラム履修生にも大きく伝わり、学生の能動的な取り組みに良い影響を与えている。 ・自分自身のキャリアプランを見直すきっかけを得た学生もいるなど、「道場」教育の効果が見え始めている。 ・本プログラム採択後の履修生選抜はまだ行われていないが、これまでに行われた説明会への参加状況を見ると、一橋大学の学生も相当数、参加が見込まれそうである。第3期生のプログラム開始の平成25年10月からは、「道場」数も2から4に増えるので、今後の「道場」教育の効果を期待したい。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、一橋大学との連携が緒についたばかりであり、第1期生・第2期生は、文理融合の効果をあまり実感していないようである。第3期生において一橋大学からの学生の参加も見込まれるので、これもきっかけにして一橋大学と強力に連携し、文理融合のあるべき形を全力で模索して行って欲しい。 ・一部に、本プログラムと主専攻分野における研究との挟間で苦勞している学生が見受けられた。このような学生に対しては、更なるサポートやFD活動などを通して教員の学内における共通理解を深めていく必要がある。 ・現状の「道場」教育においては、「座学やディベートを通じた、知識の習得、各種の経験の獲得」にとどまっており、リーダーが具備すべき素養を強化する上では、まだまだ不十分と思われる。 ・また、合意形成能力の養成に関しては、本プログラムの中では大学内という「限られた社会」での合意形成力の取得に留まっている。産業界から見た「リーダー力の醸成」という観点からみると、更なる工夫が必要である。 ・平成25年度は4つの「道場」が並立する体制が完成するので、計画書にあった「道場破り」などの施策により、更なる人間力の獲得に向けた取り組みに期待する。 			